

月刊しばうら

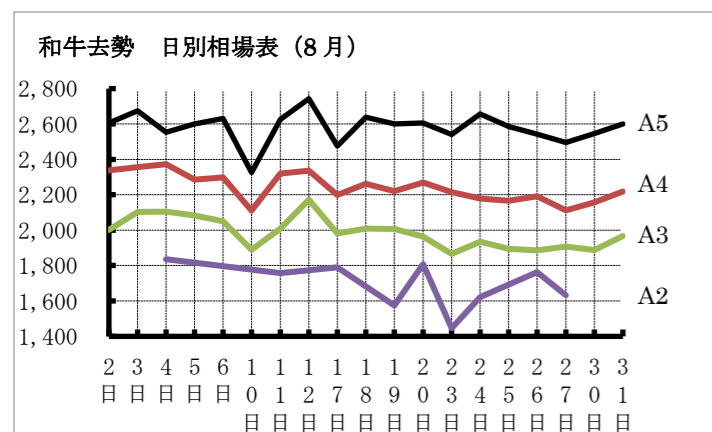
2021年9月号

牛肉営業部

<8月の相場動向>

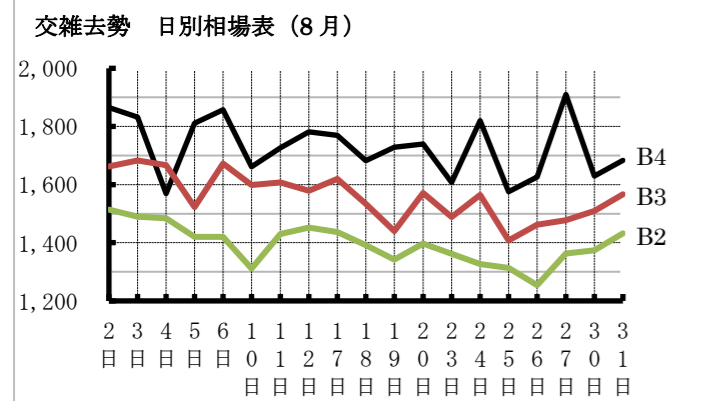
新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、お盆前の8月2日に関東4都県と大阪、沖縄に緊急事態宣言が発出されたことで、需要は大きく低迷し弱持ち合いの展開が継続した。さらに8月20日からは段階的に感染対策圏域が拡大し、最終的には9月12日まで21都道府県に緊急事態宣言が、12県でまん延防止等重点措置が発出・継続されることとなり、月後半になっても相場が上がる要素が少なく弱持ち合いの展開が続いた。

外食需要が高い和牛で弱持ち合いの展開になっただけでなく、小売りや量販店で需要が高い交雑種も末端では決して売れている状況とは言えないため、同様に弱持ち合いの展開が続いた。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,587円	+177円	107.3%	-97円	96.4%
A4	2,247円	+191円	109.3%	-122円	94.9%
A3	1,993円	+144円	107.8%	-127円	94.0%
A2	1,697円	+45円	102.7%	-98円	94.5%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,749円	+200円	112.9%	-63円	96.5%
B3	1,584円	+180円	112.8%	-6円	99.6%
B2	1,398円	+157円	112.7%	+1円	100.1%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	-	-	-	-
B2	810円	-20円	97.6%	-265円	75.3%

<9月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、7月の輸入量は前年同月比1.1%減の5万2,059tで、うちチルドは7.3%増の2万4,970tと大きく上回った。冷蔵品については前年に北米現地工場の稼働停止の影響で少なかった反動によるものとみられる。フローゼンは、現地の出荷減や相場高から豪州、米国とも減少し、前年同月比7.7%減の2万7,088tとなった。

農畜産業振興機構によると8月の牛肉輸入数量は、前年同月比6.8%増の5万400t、9月も8.5%増の4万8,000tで予測している。前年は北米工場の作業効率の低下や豪州の牛群再構築による生産減少がありその反動によるものもあり上回ると見ている。

輸入牛肉通関量		7月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,198	10,574	77.5%
	米国	14,038	10,793	130.1%
	その他	2,734	1,906	143.4%
	合計	24,970	23,273	107.3%
フローゼン	豪州	11,278	12,045	93.6%
	米国	7,478	11,625	64.3%
	その他	8,332	5,686	146.5%
	合計	27,088	29,356	92.3%

出典：食肉速報

単位：t

<9月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による9月の出荷予測頭数は、全体で前年比99.4%の8万6,300頭で、品種別にみると和牛は1.5%減の3万7,900頭、交雑種は5.8%増の1万9,300頭、乳用種は3.6%減の2万7,500頭と予測している。

東京食肉市場の9月のと畜頭数は6,850頭を予定しています。

<9月の牛枝肉相場見通し>

現在9月12日までの期間で発出されている、21都道府県の緊急事態宣言と12県のまん延防止等重点措置については、新型コロナウイルスの感染拡大状況からみて、制限が緩和される見通しが立たず、継続するという見方が大勢を占めている。

例年、小売りや量販店では焼肉アイテムが配置されつつ、彼岸過ぎごろから棚替えによるスライス商材の配置も増え始め、部位が満遍なく消費される時期となる。そのため、新型コロナウイルスの感染拡大によって低調に推移していた相場はやや上げたあと、堅調に推移するものと考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,600	B4	1,700~1,800
A4	2,300~2,400	B3	1,550~1,650
A3	2,150~2,250	B2	1,400~1,500
A2	2,000~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

7月の全国と畜頭数は、前年同月比3.2%減の131万3,089頭。また、7月の豚肉通関数量は7万4,685t(同0.5%減)と前年同月を下回り、前月比でも0.8%減少した。内訳はチルドが3万5,419t(同2.2%増)と増加し、フローゼンは3万9,267t(同2.8%減)となった。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
比	97%	100%	112%	79%	96%	92%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

7月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	18,640	123.2%	デンマーク	5,665	93.3%
カナダ	15,098	88.5%	スペイン	11,175	111.4%
メキシコ	1,678	67.8%	メキシコ	7,876	129.0%
			アメリカ	2,671	75.6%
			カナダ	2,882	102.2%
合計	35,419	102.2%		39,267	97.2%

単位：t

<8月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	62,200	699	670	566
3日	60,900	703	659	823
4日	58,100	696	649	607
5日	64,800	687	643	560
6日	62,100	643	595	862
10日	71,300	522	493	885
平均	63,233/日			717/日

全国と畜頭数は、猛暑によって肉豚の成育に影響を受けたことにより低調に推移した。また例年ほどではなかったものの、お盆商戦を見込んだ手当により相場は6日までは700円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	69,300	569	544	961
12日	55,800	598	579	812
17日	65,600	641	622	853
18日	62,200	619	599	716
19日	65,600	630	593	573
20日	62,600	619	600	917
平均	63,517/日			805/日

新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大や豪雨被害などの天候不良もあり、お盆休みでの末端の荷動きは盛り上がりには欠けた。一方で全国的にと畜頭数が伸びなかったことにより、お盆休み明けの17日には上物相場641円となり、その後も600円台をキープした。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	64,500	630	605	572
24日	66,300	619	606	838
25日	61,100	619	584	784
26日	63,400	615	571	795
27日	63,400	583	557	790
30日	62,900	589	551	633
31日	65,700	603	564	915
平均	63,900/日			761/日

全国と畜頭数は6万頭台前半の日が多く、補充手当ての動きもあり一部では品薄感もみられた。輸入豚肉が引き続き入船遅れなどの影響により北米産も入荷が不安定な状況となり、上物相場は600円前後の底堅い展開となった。

<9月豚枝肉相場見通し>

農林水産省による9月の肉豚出荷予測では133万7,000頭(前年同月比99%)と予測している。

当市場の9月のと畜頭数は1万6,000頭、1日あたりでは約800頭を見込んでいます。

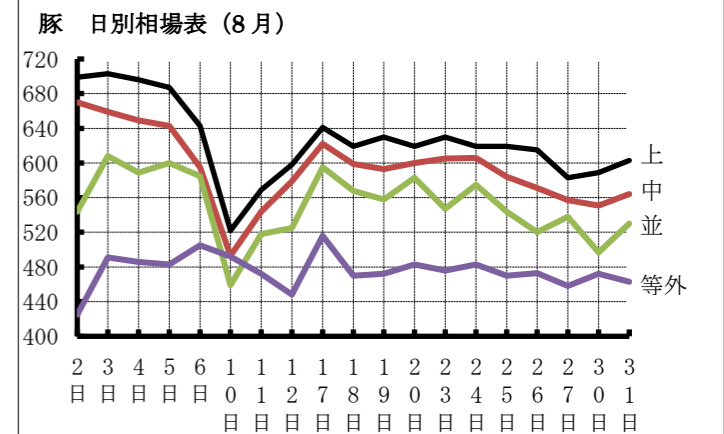
農畜産業振興機構によると9月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万9,200t(同105.8%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,200t(同98.9%)、冷凍輸入量は3万7,000t(同112.6%)と予測している。

冷蔵品輸入量は、北米における現地価格の高騰の影響等から前年同月をわずかに下回ると予測する。一方で3ヵ月平均は前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は外食需要の減少に加え、アジア諸国を中心とした旺盛な買い付けや、北米及びEU諸国の国内需要の増加による現地価格の高騰が続いているが、前年同月の輸入量が新型コロナウイルス感染症の影響で少なかったことから、前年同月をかなり大きく上回ると予測する。また3ヵ月平均でも前年同期をやや上回ると予測する。

全国的に新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が続くなか、緊急事態宣言の対象地域が広がったことにより、需要は引き続き内食需要によって堅調に推移されることが予想される。また供給面では8月の猛暑の影響により、9月前半の出荷頭数は減少する状況が続く可能性が高いが、中旬以降は出荷も徐々に回復してくることが予想され、連休前後が相場変動のターニングポイントとなりそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は540円前後、中物平均価格510円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127